

<今日の説教のポイント マタイによる福音書 26 章 69～75 節>

ペトロとユダ（来週）の姿から聞き取るべきことは何か？

①ペトロに見る人間の絶望 — 神の救いはそこから始まる！

後に初代教会の大事な柱の一人となったペトロ。そのペトロが立て続けに3度も「イエスなんて知らない」と告げたという内容に衝撃を覚えます。しかし、この内容はペトロ自身が告白したことに基づいていると考えられています。本人しか知り得ないことが語られているからです。「かつて、私はこのようにイエス様を見捨てる罪を犯したのです」、とペトロは人々に話して聞かせたのでしょうか。ペトロはこの恥ずかしい内容を語ることによって、絶望ではなく希望を語ろうとしたのです。すなわち、どうしようもない自分という人間が作り出す絶望を、神様が打ち破って下さる希望について語ろうとしたのです！ 「罰されて当然であった自分を、こうして神様は赦して下さったのだ、そのような道を用意していて下さったのだ」、とペトロは語る者となったのです。ペトロがそのことに気づかされたのは、一体、いつ、どこで、何によってでしょうか？

②取り返しのつかない罪 — それは主の復活で終わる！

外に出て激しく泣いた(75)ときのペトロの精神状態はどんなだったのでしょうか？ 情けなさで打ちのめされた状態だったでしょう。その後、イエス様の十字架につけられて亡くなります。ペトロはさらにどうすることもできない、絶望状態の中に置かれた時を過ごしたことでしょう。しかし、その状態が一変する時が訪れたのです。イエス様が復活されたからです。復活された主と出会った時に、ペトロに新しい時、もう一度やり直せる時が訪れたのです！ 主イエスに対して犯してしまった罪、3度の否み。それが復活された主イエスによって赦されたのです（ヨハネ 21:15～19）。

イエス様を3度否んだペトロとイエス様を銀貨30枚で祭司長たちに売り渡したユダ。この両者にどれだけの違いがあるのでしょうか？ 神様の前に立つ罪人としては大差ないのです。大事なことは、自分に絶望した時に、神様に全てを委ねるかかどうかです。来週、ユダを通してそのことを考えたいと思います。